

北海道士別市で確認された標識コハクチョウについて

本部 哲矢¹⁾

1) 士別市立博物館

はじめに

コハクチョウ *Cygnus columbianus* は、オオハクチョウとともに、日本で見られる代表的なハクチョウ類である。環北極圏ツンドラで繁殖、サハリンなどを經由して道内に飛来し、北日本から日本海側で越冬し、オオハクチョウとは、嘴の黄色部の先端が尖っていないことから見分けることができる。(川井ほか, 2013)。北海道では、旅鳥、一部が冬鳥として飛来し、河川下流部で越冬し、渡りの時には湖沼にも飛来する(藤巻, 2012)。士別市では、毎年春や秋の渡りの時期になると、湖沼や田畑で羽を休めたりエサを探す様子が見られる。

2021年4月11日、士別市多寄町で赤色の首環を付けたコハクチョウを発見した。この首環は個体を識別するための標識で、NPO 法人バードリサーチ(以下、バードリサーチ)が目撃情報を収集していたことから、観察記録と標識情報を報告した。標識の番号から、同個体は2020年にロシアのチャウン湾で標識・放鳥され、士別市以外に山形県や新潟県で目撃されていることが判明した。士別市に飛来するコハクチョウの渡りや生態に関する記録とするとともに、地域の方に身近な野鳥について関心を持ってもらうきっかけとするために、ここに記載する。

観察状況

士別市では、かつて天塩川や剣淵川の川筋が河川の切り替えによって取り残されることで生じた三日月湖が点在し、春や秋になると多数の水鳥が飛来する。筆者は、天塩川上流域の自然をテーマとした調査の一環として、市内の水辺に飛来するハクチョウ類やカモ類等の水鳥を定期的に観察している。2021年4月11日午前5時30分頃、士別市多寄町で水鳥の飛来状況を観察していたところ、道道976号沿いにある湖沼で赤い首環を付けたコハクチョウを発見した(図1-2)。観察地点の道路脇からは約150m離れており、羽繕いをする様子が見られた。望遠レンズを装着したカメラで記録

写真を撮影し、後日写真で確認したところ、赤色の首環に「C20」の刻印が確認できた。また、右脚には金属の足環が付いていたが、足環の刻印は確認できなかった。この首環は標識調査のために装着されたものであり、標識を付けた野鳥の目撃情報は、いくつかの研究機関、団体によって収集されている。今回目撃したプラスチック製のカラフルな首環(カラーマーキング)を付けたコハクチョウについては、バードリサーチが目撃情報を募っていたことから、ウェブ上の入力フォームにより、観察日や観察地、標識情報、記録写真等を報告した。

標識個体について

ウェブ上で公開されている「標識コハクチョウ名簿」(バードリサーチ, 2023)によると、カラーマーキングで標識されたコハクチョウは、繁殖年齢や寿命を調べるために Diana Solovyeva 氏によって、ロシア北極圏のチャウン湾で標識・放鳥されたものであり、今回目撃した「首輪-赤 C20」の個体を参照したところ、以下の情報が得られた。

〈放鳥記録〉

・2020/8/19 ロシア チャウン湾、成鳥・繁殖

〈観察記録〉

- ・2020/11/14 新潟県 新潟市福島潟と阿賀野川に挟まれた水田帯
- ・2021/4/11 北海道 士別市多寄町
- ・2021/11/1 新潟県 村上市北新保大池(お幕場大池)
- ・2022/1/8 新潟県 新潟市北区福島潟
- ・2022/3/12 山形県 酒田市三之宮
- ・2022/12/11 山形県 鶴岡市大山上池・下池

情報の性質上、目撃地点や日付が断片的であるため、移動経路の全体像を知るには至らないが、2020年には、繁殖地であるロシアのチャウン湾から直線距離で約3,940km離れた新潟県新潟市へ移

本部：北海道士別市で確認された標識コハクチョウについて

動していることが分かる。実際の越冬地は不明だが、その後 2022 年にかけて直線距離で約 755km 離れた士別市まで移動している。

最後に

各個体を区別する標識を野鳥に装着して放し、その後の回収や観察による番号の確認によって、その個体の飛来地や寿命等を調べることを、鳥類標識調査（バンディング）という。標識は金属足環が一般的で、ハクチョウ類やガン類などの体が比較的大きな種類は、カラーマーキングと呼ばれるカラフルなプラスチック製の首環や足環が使われる場合もある。カラーマーキングは、再捕獲なしで刻印を確認することができるという利点がある。その他、近年では衛星用送信機やレーダーなどの機器によって移動追跡する研究も進められている。渡りの研究は、鳥類の生態を明らかにするとともに、経路上にある各地域の生息地の保全にも貢献している。

士別市には水鳥が飛来する小規模な湖沼が点在し、ハクチョウ類は春や秋の風物詩として地域住民に親しまれている。士別市立博物館では、市内小学校への出前講座として、4 学年理科「季節と生き物」の単元において、ハクチョウ類を取り上げて紹介している。標識コハクチョウの存在は、ハクチョウが長距離を移動し、中継地点として士別市に飛来していることを実感させる事例と言えるだろう。今後も地域に生息する野鳥について普及活動を進めるとともに、士別市に飛来する野鳥の生態を知るためにも、標識を付けた野鳥の目撃情報を集めていきたい。

参考文献

- 河合大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳, 2013. 新訂 北海道野鳥図鑑, 亜璃西社
- バードリサーチ, 2023. 標識コハクチョウ名簿, <https://sites.google.com/view/hakucho-meibo/> (2023-3-1 参照)
- 藤巻裕蔵, 2012. 北海道鳥類目録 改訂 4 版. 極東鳥類研究会



図 1. 観察地点の様子 (2021 年 4 月 11 日撮影)



図 2. 標識コハクチョウ (2021 年 4 月 11 日撮影)